

# 「ディスペアリング・ワールド」全57巻地域別・国別索引

56巻完全セット価格1,680,000円+税 各巻38,000円+税

|             |           |             |
|-------------|-----------|-------------|
| アジア・オセアニア地域 | 全15巻セット価格 | ¥520,000円+税 |
| ヨーロッパ・中東地域  | 全11巻セット価格 | ¥360,000円+税 |
| 北米・中南米地域    | 全12巻セット価格 | ¥390,000円+税 |
| アフリカ地域      | 全18巻セット価格 | ¥580,000円+税 |

| 地域 | 国・地域名<br>タイトル 制作年<br>英文原題名 (DW=Disappearing World) | 内容 |
|----|--|----|
|----|--|----|

## アジア・オセアニア地域 全15巻セット価格 520,000円+税

|     |   |   |
|-----|---|---|
| アジア | パキスタン<br>ハイバル峠 1979年<br>DW-25. Khyber   | 1842年以来一世紀ものあいだ続いたインド西北国境におけるパター人(Pathan)と英国軍の戦い。そのきっかけは大量虐殺だった。現在のパキスタンとアフガニスタンの国境ハイバル峠(The Khyber Pass)の岩肌に残る血痕がその歴史を今に伝える。英国軍が去ったあとは、パター人とパキスタン軍のあいだで争いが続く。人類学者アクバル・アーメド、ルイ・デュブレ監修 |
|     | インドネシア<br>ラマホロ族と捕鯨 1988年<br>DW-44. Whale Hunters Of Lamalera                  | インドネシアの海で粗末な小舟と碇でマッコウクジラを追うラマホロ族。鯨の数の減少により、有利な職を求めて島を出る人々など伝統的生活が脅かされる姿を伝える。  |
|     | インドネシア、スマトラ<br>サクッディ族 1974年<br>DW-14. The Sakuddei                            | インドネシアのスマトラ島西海岸、険しい谷により外界から完全に遮断され、自然と調和し、平等な社会を営むサクッディ族(Sakuddei)。入れ墨など彼らの伝統的生活が、それでも開発の波に揺れる姿を伝える。火の踊りのシーンは、圧巻である。スイスの人類学者レイマー・シェフォール監修。  |
|     | スリランカ<br>シンハラ人 1973年<br>DW-08. Kataragama-A God for All Season                | スリランカ(当時はセイロン)の人々が等しく崇拝する「カタラガマ」とは、もとヒンドゥ教の神だった。森で行方不明になった少年の両親(シンハラ人)がこの神に救いを求める姿をとおり、燃えさかる炭火の上を歩き、背中に針を刺すなどの崇拝行為を映し出す。人類学者ガナナス・オベイセケレ監修。  |
|     | 中国<br>カザフ族 1983年<br>DW-34. Inside China: The Kazakhs of China                 | 中国少数民族の一つである遊牧民カザフ族の伝統的生活と最近の生活サイクル、中央政府との軋轢を伝える。   |
|     | 中国南西部<br>中国南西部無錫 第1部 1983年<br>DW-32. Inside China: Living with the Revolution | 無錫(むしゃく)(ウーシー)の近くに住む家族の働く姿、家庭生活、包み隠しのないインタビューを通して中国を席卷した大変革に対する人々の本音を伝える。   |
|     | 中国南西部<br>中国南西部無錫 第2部 1983年<br>DW-33. Inside China: The Newest Revolution      | 無錫(むしゃく)(ウーシー)の近くに住む家族の日々の生活、フランクなインタビューを通して中国を席卷した大変革に対する人々の本音を伝える。  |
|     | ネパール<br>シェルパ 1977年<br>DW-22. The Sherpas                                      | エベレスト登山者のガイドとして有名であるがあまり知られていないシェルパの日常生活。徹底した個人主義を特徴とする彼らの生活をタミ村出身の三兄弟の姿を通して伝える。  |
|     | ミャンマー<br>ミャンマー人 1993年<br>DW-57. Longest Struggle                              | ミャンマーが1948年に独立した後、東部に暮らすカレン族(Karen)は自分たちの独立をめざす内戦を続けてきた。平和を知らないその日常生活や、森林の伐採を巡るタイとの攻防、仏教の布教活動などを追う。シリーズ最終巻。人類学者トム・シーハン監修。   |
|     | モンゴル<br>ハルハ族 第1部 1975年<br>DW-17. Mongolia: On the Edge of The Gobi            | モンゴルの大草原地帯。馬術の天才ハルハ族(カルカ族)。社会主義革命後の集団農場での彼らの生活に焦点を当てる。  |
|     | モンゴル<br>ハルハ族 第2部 1975年<br>DW-18. Mongolia: City on the Steppes                | 人口の四分の一が住むモンゴルの首都ウランバートル。この大草原の中の都市での人々の日常生活と革命53周年を祝うパレード、競馬、モンゴル相撲、射的大会などを紹介する。   |
|     | トウバ自治共和国 (販売終了)<br>トウバ人 1989年<br>DW-47. Herders of Mongun - Taiga             | モンゴルと国境を接するシベリア奥地トウバ(トゥーヴァ)共和国。この極寒の地の遊牧民の文化と息をのむような自然の透明な美しさを伝える。  |
|     | ラオス<br>モン族 1972年<br>DW-06. The Meo  | ラオスのモン族(Meo)は、自身のことをHmongと言う。かつては中国の北部から中央部にかけて広く展開していた。ベトナム戦争により蹂躪されたラオス山岳地帯での生活を通して彼らの平和で伝統的な生活への願いを淡々と伝える。案内役は、人類学者ジャック・ルモン。   |

| 地域    | 国・地域名<br>タイトル 制作年<br>英文原題名 (DW=Disappearing World)                                  | 内 容   |
|-------|---|---|
| オセアニア | ソロモン諸島<br>ラウ諸島民 1987年<br>DW-41. The Lau   | 南太平洋の礁湖の人工サンゴ島に住むラウ族。キリスト教宣教師や外界の影響から、自らの伝統的信仰、生活、価値観を守ろうとする姿を伝える。  |
|       | パプアニューギニア<br>カウエルカ族 1974年<br>DW-12. Kawelka-Ongka'S Big Moka                        | パプアニューギニアの高地に住むカウエルカ族(Kawelka)。この部族のカリスマ的存在であるリーダーのオンカ(Ongka)の働きぶり、彼らの唯一最大の催し物である財産贈与の習慣「モカ(Moka)」の記録をとおして、かれらの生活を描く。人類学者アンドルー・ストレイザーン監修。 |
|       | パプアニューギニア<br>トロブリアンド諸島民 1990年<br>DW-49. The Trobriand Islanders of Papua New Guinea | パプアニューギニアの東の外れにあるトロブリアンド諸島。ヤムイモの収穫後に行われる『生』を祝う祭りの様子と、女たちの『富』を基本とする複雑な社会構造を伝える。  |

**ヨーロッパ・中東地域 全11巻セット価格 360,000円+税**

|   |  |   |
|---|--|---|
| 中東  | アフガニスタン<br>キルギス族 1975年<br>DW-16. Kirghiz of Afghanistan  | アフガニスタンの片隅、海拔4500メートル、9ヶ月間雪に閉ざされる不毛の台地。このソビエトと中国の間の地峡地帯で中世以来変わらぬキルギス族の生活を伝える。   |
|   | イラン<br>クルド族 1973年<br>DW-07. The Dervishes of Kurdistan   | イラクと国境を接するイラン山岳地帯のバイベ(Baiveh)にあるクルド族(Kurdistan)の村。この村の男の大半はイスラム神秘主義教団の修道士である。顔に串を刺し、毒蛇を操る彼らの神秘的、忘我的祈禱をカメラが捕らえる。   |
|   | パキスタン<br>アフガン難民<br>1980年<br>DW-26. Afghan Exodus   | 1975年の第16巻: キルギス族から5年ぶりにアフガニスタンを訪れた撮影隊がみたものは? ソ連軍のアフガン侵攻で住み慣れた土地を追われ難民となったキルギス人(Kirghiz)、ハザーラ人(Hazara)、そしてパタン人(Pathan)らの苦境を伝える。かつて英国軍と戦った誇り高いパタン人は今ソヴィエト軍と戦う決意がある。人類学者アクバル・アーメド、レミー・ドール監修。1980年作品三部作の第2話。 |
|   | パキスタン<br>パタン人 1980年<br>DW-27. The Pathans  | パキスタン・アフガニスタン国境によって引き裂かれているパタン人(パタン人)。地理的国境の意識がなく、共通の言語、伝統及びイスラム教で強く結ばれ、もてなし、個人の尊厳、そして復讐を核とした生き方を伝える。   |
|   | パキスタン<br>カラシュ族 1990年<br>DW-50. Kalasha-Rites of Spring   | パキスタン北西国境地帯、ヒンドークン山脈の渓谷に暮らすカラシュ族は、このイスラム国家の異教徒である。カメラは春の訪れを祝う祭りの様子を色鮮やかに映し出すと同時に、政府の観光開発で揺れるこの少数民族の姿を伝える。   |
| ヨーロッパ   | アルバニア<br>北アルバニア人 1991年<br>DW-53. The Albanians of Progam   | 第二次大戦後、外国人に閉ざされてきたアルバニア北部の山岳地帯にあるプロガム村。厳しい自然環境の中、山羊と羊、わずかな高地でとれるジャガイモ、政府の援助による黒パンなどで生活する村人の抱える問題を伝える。   |
|   | スペイン<br>カスティリア人 1989年<br>DW-46. Villagers of the Sierra de Gredos  | スペイン中央部、グレドス山脈の高地に位置する人口わずか130人ほどのナバルギッホ村。痩せ細った土地と厳しい自然条件の中、ヨーロッパで唯一の移動放牧民を襲った百年に一度と言われる異常気象に対処する姿を伝える。   |
|   | ノルウェー<br>サーミ人 1987年<br>DW-38. An Invisible Enemy   | チェルノブイリ事故によるトナカイ肉の放射能汚染、あるいは水力発電施設用道路による古来からの放牧ルートの遮断など、見えざる敵により伝統的生活を脅かされるスカンジナビアの少数民族サーミ族(サミ族/ラップ人)の姿を伝える。  |
|   | ハンガリー<br>ヴェリアキア人ジプシー 1988年<br>DW-43. Across the Tracks: Vlach Gypsies in Hungary   | ハンガリー政府の定住化政策にもかかわらず、頑なに伝統的生活を守り、経済活動の本流から外れた生活を望むジプシーたちのロマンティックであるが厳しい生き方を伝える。   |
|   | ピレネー山脈高地<br>フランス系バスク人 1987年<br>DW-39. The Basques of Santazi   | 何百年もの間、夏のピレネー山脈の高地で羊の放牧をしてきたサンタジのバスク人たち。世界の急激な変化に伴って崩れていく伝統的羊飼いの生活と村人たちの困惑を伝える。   |
| ボスニア<br>ボスニア人 1993年<br>DW-55. We Are All Neighbours | 1993年1月、撮影隊は旧ユーゴスラビア領ボスニアのある小さな村を訪れる。ここではクロアチア人、セルビア人、イスラム教徒が平和な隣人として友好的に暮らしていた。だがボスニア危機のなか、ついにこの村にも武力攻撃が始まる。数ヶ月後に再訪した撮影隊の見たものは…。人類学者トニー・プリンガ監修。 |   |

**北米・中南米地域 全12巻セット価格 390,000円+税**

|    |  |  |
|----|--|--|
| 北米 | カナダ<br>イヌイット族 1977年<br>DW-20. Eskimos of Pond Inlet                      | カナダ バフィン島ポンド入江の居住地に住むエスキモーたち。伝統的生活への絶えがたい回帰の願い、白人文化の侵略に対する憤りなど、悲痛な叫び声を伝える。 |
| 中米 | グアテマラ<br>カクチケル・マヤ族 1991年<br>DW-54. Cakchiquel Maya of San Antonio Palopo | アティトゥラン湖のほとりの村サンアントニオパロポに暮らすマヤ族の子孫たち。16世紀そのままの彼らの生活を伝える。                   |

| 地域  | 国・地域名<br>タイトル 制作年<br>英文原題名 (DW=Disappearing World)   | 内 容   |
|---|--|---|
| 南米  | コロンビア<br>クイーヴァ族 1971年<br>DW-02. The Last of the Cuiva  | 白人入植者による大量虐殺のあと、南米コロンビア北東地域にわずかに生き残ったクイーヴァ族(Cuiva)。その末裔たちを、人類学者ベルナルド・アルカンとともにアグクララ川を遡上して取材する。この消えゆく種族をとおして文明の価値とは何かを問う。65分。   |
|   | コロンビア<br>エンベラ族 1971年<br>DW-03. Embera-The End of the Road  | 人類学者アリアヌ・デルースの案内で南米コロンビア西部の辺境、チョコを訪ねる。その川の源流近くで狩猟生活を営むエンベラ族。過去400年のあいだスペイン人やリーブレ(黒人奴隷の子孫の)侵略から逃れてきた彼らが、今、最大の侵略者パンアメリカンハイウェイによって滅びようとしている。51分。                             |
|   | コロンビア<br>マク族とバラサナ族 1971年<br>DW-04. War of the Gods   | 南米コロンビア、アマゾン川流域の奥深い森の中で生活するインディオ、マク族とバラサナ族。狩猟が生活のリズムをつくっているが、近くに滑走路ができ飛行機が飛んでくるようになって、その生活も変わり始める。彼らの生活に入り込み、改宗させようとするカトリック宣教師とアメリカの伝道師の競争を人類学者ピーター・シルバード・コープの解説で考える。66分。 |
|   | ブラジル<br>メヒナク族 1974年<br>DW-10. The Mehinacu   | ブラジル中央部を流れるシンガー川付近で男女両性を明確に分離して生活するメヒナク族が年に一度、両性の対立と愛情の入り交じった少々エロティックなゲームとダンスを行うピクイの儀式を伝える。   |
|   | ブラジル<br>アンバンダ信者 1977年<br>DW-23. Umbanda-Problem Solver   | アフリカ黒人奴隷たちの部族信仰とカトリックの融合から生まれたアンバンダ。信者は神官を通して心霊世界からの助言と救いを求める。  |
|   | ブラジル<br>都会のブラジル人 1982年<br>DW-31. Carnaval Bahia  | 貧民街の人々が貧しさを忘れ、町の王様となるパイアのカーニバル。カメラは踊りと音楽、そして色彩にあふれた壮観なお祭りを映し出す。   |
|   | ブラジル<br>カヤボ族 1987年<br>DW-40. The Kayapo  | イギリスの面積を超えるジャングルに住むカヤボ族(カヤーボ族)。金鉱脈の発見により富を得、世界で初めて空軍力を持った少数民族の姿を伝える。  |
|   | ブラジル<br>カヤボ族と熱帯雨林保護運動 1989年<br>DW-45. The Kayapo-Out of the Forest   | アマゾンの森林開発に対抗するインディオたち。伝統的生活を守り、森林破壊の報いを伝える世界的キャンペーンの中心となるカヤボ族の酋長 Ropni = ロップニと彼を支援する"スティング"の姿を伝える。  |
|   | ベネズエラ<br>パナレ族 1970年<br>DW-01. A Clearing in the Jungle   | シリーズ第1作は、1970年の制作である。南米ベネズエラの首都カラカスからわずか300マイルのジャングルのなかで、文明を頑なに拒み、血縁関係の絆で堅く結ばれたパナレ族(Panare)。その階級のない平等な原始的生活を人類学者ジャン・ポール・デュモンの案内で訪ねる。40分。                                  |
| ペルー・アンデス高地<br>ケチュア族 1974年<br>DW-13. The Quechua | 南米ペルー、アンデスの標高2400メートル地帯のケチュア族(Quechua)。カマワラ村(Kamawara)に住む若い父親とその家族を通して、棍棒による農耕などの日々の生活を追う。人類学者マイケル・サルノー監修。 |   |
| <b>アフリカ地域 全18巻セット価格 580,000円+税</b>              |  |   |
| アフリカ  | アルジェリア<br>トゥアレグ族 1972年<br>DW-05. The Tuareg  | かつてサハラ警隊と呼ばれ、アルジェリア、マリ、リビア、ニジェールにまたがる広大な土地をアラブから守ったトゥアレグ族(Tuareg)。アルジェリアの砂漠の中心部で昔ながらの誇りを保ち続けるひとりの男の目をとおして民族の消えゆく姿を伝える。案内役は、人類学者ジェレミー・キーナン。                                |
|   | エチオピア<br>マルシ族 1974年<br>DW-09. The Mursi  | エチオピアの南西のはずれに生活するマルシ族(マーシ族)は部族全体の意志がまとまるまですべての言い分を聞くという特異な民主主義を持つ。他部族との生死をかけた争いに際し、彼らの独自の民主主義的決定過程をカメラは追う。  |
|   | エチオピア<br>クウェグ族 1982年<br>DW-28. The Kwegu   | エチオピアの南西部のはずれで生活する二つの部族クウェグ族(クエッグ族)とマルシ(mursi)族(マーシ族)。生活に必要な技術をもつクウェグ族(クエッグ族)と外敵から彼らを守るマルシ族の相互依存的な生活とその崩れゆく姿を伝える。   |
|   | エチオピア<br>マルシ族 1985年(74年版を改訂)<br>DW-35. The Mursi Trilogy-The Mursi   | 第一部: 戦争から日常生活に至るまで、意見が一致するまで議論する彼らの驚くべき民主主義制度を紹介する。   |

| 地域   | 国・地域名<br>タイトル 制作年<br>英文原題名 (DW=Disappearing World)              | 内 容  |
|------|---|--|
| アフリカ | エチオピア<br>クウェグ族 1985年(82年版を改訂)<br>DW-36. The Mursi Trilogy-Kwegu | 第二部: カヌー作りと操作に優れた技術を持つクウェグ族(クエッグ族)を支配するマルシ族(マーシ族)の姿を紹介する。  |
|      | エチオピア<br>マルシ族の移民 1985年<br>DW-37. The Mursi Trilogy-Migrants     | 第三部: 干ばつと飢えを逃れ、涼地を捜して移住した約四分の一のマルシ族(マーシ族)の人々。現代社会との接触により崩れていく彼らの伝統的生活を伝える。   |
|      | エチオピア<br>マルシ族 1991年<br>DW-51. Mursi:The Land Is Bad             | エチオピア南西部の外れ、スーダン国境近くに暮らすマルシ族(マーシ族)の暮らしを通じて、現代人が忘れ去った大昔の生活を今に伝える。   |
|      | エチオピア<br>マルシ族 1991年<br>DW-52. The Mursi:Nitha                   | 大人として認められるだけでなく、社会における自分の位置を決定する成人の儀式 NITHA = ニーサを通して、マルシ族の原始の社会構造を伝える。  |
|      | ガーナ<br>アサンテ族 1982年<br>DW-30. Asante Market Women                | ガーナのクマシ(Kumasi)中央市場を取り仕切るのは女たちである。一夫多妻制で男に隷属する反面、母系社会であるため財産は夫の姉妹たちに受け継がれる。その変わりゆく社会形態を伝える。  |
|      | ケニア<br>マサイ族の女性 1974年<br>DW-11. Masai Women                      | 東アフリカの大地溝帯「リフトヴァレー」の西部高原、ケニア南部とタンザニア国境付近に住むマサイ族(Masai)。女たちは、娘、妻、母という役割のほかには部族内での地位や権利を得ることはない。そのような社会において女であることとは何かをカメラが捕らえる。53分。    |
|      | ケニア<br>マサイ族の男性 1975年<br>DW-15. Masai Manhood                    | 東アフリカの大地溝帯「リフトヴァレー」周辺で生活するマサイ族(Masai)。戦士「モラン(Moran)」として部族の外ペリで生活する若い男たちが、部族社会の意志決定に参加できる「成人」となるための儀式を伝える。人類学者メリッサ・ルウェリン・デイヴィス監修。     |
|      | ケニア<br>レンディーレ族 1977年<br>DW-21. The Rendille                     | アフリカを東西に横断する半砂漠地帯でラクダを主な家畜として生活するレンディーレ族(レンディール族)。草を求めて時には村から何百キロとラクダの群を率いるのは若者が成人として村に落ち着いたための義務である。                                |
|      | シエラレオーネ<br>メンデ族 1990年<br>DW-48. The Mende                       | シエラレオーネの森林のなかの開拓地、人口260人のメンデ族(メンテ族) Kupawara = クパアワラ村。イスラムの断食月の彼らの姿を内面深く捕らえた色彩豊かな作品。   |
|      | スーダン<br>シルック族 1976年<br>DW-19. The Shilluk                       | ナイル川を溯ること1600キロメートル。16世紀に統一されたシルック族の領土は、現在はスーダンの一部となっている。代々続いた王朝の新国王即位式の様子をつぶさに紹介する。   |
|      | スーダン<br>アザンデ族 1982年<br>DW-29. Witchcraft Among the Azande       | かつてアフリカ最大の王国を築いたアザンデ族。今日、キリスト教の影響を受けながらも、魔術、神の言葉、呪いによって支配される彼らの知られざる日常生活を伝える。  |
|      | スーダン<br>ウドック族 1993年<br>DW-56. Orphans of Passage                | アフリカ、スーダン南部のウドック族(Uduk)は自国政府からの迫害を受け、エチオピアとの国境を越える過酷な逃走を何度も強いられ、エチオピアの難民キャンプで暮らすしかない。そんな苦境のなかでも部族は儀式によって連帯感を保っている。人類学者ウエンディ・ジェームズ監修。 |
|      | ナイジェリア<br>ウダベール族 1988年<br>DW-42. The Wodaabe                    | サハラ砂漠南部のサヘル地帯を移動する真の遊牧民ウダベール族(ウダーベ族)。牛、ダンスと衣装、遊牧、複雑な掟を生活の拠り所とし、厳しい自然を生き抜く姿を伝える。  |
|      | モロッコ<br>モロッコ女性 1971年<br>DW-24. Saints and Spirits               | 女性だけで構成された撮影隊がイスラム教を信仰する女たちの神秘主義的生活をマラケシュに追う。  |

2014-03-21